

『経済物理』からエコノミストは何を学ぶか？

浜田 宏一

Yale 大学 経済学部

Abstract

物理学と経済学で基本的に違うのは、粒子は意識を持たないが、経済主体は意識を持ってお互いに反応しあうということである。物理学で扱う経済主体は往々にして「考えない輩」であるのに対して、経済学のほうは「考えすぎる輩」であることが問題である。しかし経済学が物理学から学ぶことは沢山ある。そのいくつかを述べても、価格、出来高データの精密な検証、個別主体と経済全体の関係、粒子としての相互関係の分析、非正規分布の世界の解析、統計の空間的、時間的集計の問題などである。

この報告では、以上のような問題を、筆者の今扱っている国際資本移動の問題、より一般的に、金融危機とポンジゲーム、「金融工学」の有効性、集計の問題と繰り込み理論の（おそらく遠い？）結びつきの可能性などを例にとりながら、説明し、物理学者のご教示を仰ぎたい。